ローマ人への手紙第八五回質問

３　肉によって弱くなったため、律法にできなくなったことを、神はしてくださいました。神はご自分の御子を、罪深い肉と同じような形で、罪のきよめのために遣わし、肉において罪を処罰されたのです。

４　それは、肉に従わず御霊に従って歩む私たちのうちに、律法の要求が満たされるためなのです。

（ロマ八章三―四節／新改訳2017）

（問一）「神がキリスト・イエスにあって成し遂げられた救いのみわざを素直に受け入れる人を救って下さいます。その受け入れる信仰によって義と認めて下さいます。それは神の御前に降参する態度です。その信仰すらも神は恵みによって与えて下さるものです」と説明されていますが、どこの聖書個所に信仰も恵みであるとの説明がありますか。

（問二）私たちキリスト者は神の子どもとされました。神の御子キリストが神の子であるのとは、どう違いますか。

断罪されない確かな証拠
（ロマ八章三節）

クリスチャンは絶対に断罪されることがありません。このことがわかれば、わたしたちは神のために勇気と力をもって、もっと積極的に行動することができるはずです。クリスチャンが断罪されることはないのです。それは、クリスチャンは罪と死の原理からすでに自由にされているからですし、それは、律法ができなかったことを神がしてくださったからです。

人類はみな罪人です。人がそれを認めようと認めまいと、わたしたちはみな生まれながら罪人です。罪人は最後にさばかれなければなりません。ですから、わたしたちは死と死後のことを恐れるのです。しかし、わたしたちクリスチャンは、もう死をも死後のことをも恐れません。それは、神がわたしたち罪人を救うためにあることをしてくださったからです。それは何でしょうか。それは、罪人がしなければならないことなのですが、実は罪人自身にはできなくなってしまったことです。それを分析してみますと、一つは、律法が罪人に対

して要求する刑罰を完全に受けることであり、もう一つは、律法が要求している神への完全な服従、つまり義を行なうことです。

「わたしたちが肉によって無力になったために、律法ができなくなっていたこと」を誤解して、律法は悪だと考える人がありますが、すでにパウロが繰り返し述べてきたように、律法は、聖いものであり、正しく、また良いものであって、決して悪いものではありません。律法が悪いのではなく、人間が罪に陥ったがために、律法を完全に守ることができなくなり、義に到達することができず、いのちを得ることもできなくなってしまいました。それを神がキリストによって、身代わりに、してくださったのです。

ですから、救いはあくまでも神がなしてくださったことの結果として与えられたものであって、神の救いです。ここで「神はしてくださった」と言われていることは重要なことです。しかも、父なる神と、子なる神と、聖霊なる神の三位一体の神の御業としての救いです。父なる神が計画され、子なる神をこの世に遣わし、わたしたちの身代わりに十字架上で断罪し、聖霊なる神がそれをわたしたちに適用してくださいます。この三―四節にもそのことがしるされています。つまり、わたしたちの救いは、その最初から最後まで、すべてが神の御業です。わたしたちのうちや、わたしたちのわざには少しも救いの基礎は置かれていません。そこに救いの確かさがあると言っていいでしょう。もしもわたしたちの決断とか、わたしたちが神にどれほど信頼しているかというわたしたち

の側の信頼度に置かれていたら、たえず変動しているわたしたちの上に置かれた救いというものは、不確かなものになってしまうでしょう。わたしたちが救われたいと決心をしたから救われたのではありません。神が御子をこの世に遣わして、わたしたち罪人が受けなければならないさばきを、身代わりに受けてくださったことによって、その事実を基礎として、神はそれをすなおに受け入れる人を救ってくださいます。そして、その受け入れるという信仰も、決してわたしたちのわざなのではなく、神の御前に、神を神とし、自分を造られた人間、しかも罪人として認める時、それを信仰と認めてくださるのであって、それはわざではなく神に対する心の態度にすぎません。積極的に何かをするのではなく、神の御前に降参する態度です。そして、それすらも神は恵みによって与えてくださるものなのです。

キリスト教は、主イエス・キリストを離れてはありえません。キリスト教の内容は徹頭徹尾、主イエス・キリストです。もう少し厳密な言い方をすれば、神が御子イエス・キリストにおいてなさったことです。神が「御子を罪ある肉と同じような姿でお遣わしになり、その肉において罪を断罪されたのである」ということです。これこそキリスト教の中心であり、キリストの福音にほかなりません。

ここで「御子を……お遣わしにな」ったと言われていますが、これは、三位一体の第二人格である御子イエス・キリストのことです。確かに聖書では、わたしたちクリスチャンのことも「神の子ども[1]」と呼んでいます。しかし、わたしたち

クリスチャンは「子としてくださる御霊」によって「神の子ども」とされたのであって、いわば養子です。しかし、キリストはそうではありません。[2] 生まれながら神ご自身の御子なのです。また、詩的な表現として、天使のことを「神の子たち」[3]と呼んでいますが、人間にしても天使にしても、これらはいずれも被造物です。しかし、御子は、父なる神によって造られた被造物ではなく、父なる神から生まれた方であり、本質と栄光において父なる神と一つであり、父なる神とひとしく、永遠のお方なのです。ですから、この手紙においても、その冒頭のところで、次のように宣言されています。「御子は……聖い御霊によれば、死人の中からの復活により、御力をもって神の御子として宣言されたお方であって、わたしたちの主イエス・キリストである。」[4]

しかし、御子は同時に、「肉によれば、ダビデの子孫から生まれ」[5]たお方であって、御子は永遠の神であられながら、人間となられたのです。それは、肉体だけが人間で、霊は神であるというのではありません。神であられながら、霊と肉体をもった人間となられたのです。これが、「御子を罪ある肉と同じような姿でお遣わしになり」、と言われていることです。これが、神の御子の受肉とよばれることです。

永遠の神が、どうして人間としてこの世に来られなければならなかったのでしょうか。神は、どうしてその愛する御子をこの世に遣わされなければならなかったのでしょうか。聖い神が、罪の満ち満ちたこの世に来られるということは、決してなまやさしいことではありません。しかも「罪ある肉と

同じような姿でお遣わしにな」るということは、よくよくのことです。そのことについては、ヨハネが次のように説明しています。

「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは、御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。[6]」

神が御子をこの世に遣わされたということは、神がこの世にいるわたしたちをどんなに深く愛しておられるかという証拠です。神は、わたしたちを救い、いのちを与えるために、御子をこの世に遣わされたのです。

「神はそのひとり子を世に遣わし、その方によって私たちに、いのちを得させてくださいました。ここに、神の愛が私たちに示されたのです。[7]」

神が御子イエス・キリストをこの世に遣わされたという事実の中に、神の愛を見いだせないでいる人は、霊的に盲目な人々です。このことがわかり、神がわたしのためになしてくださった御子に関する大きな犠牲が、本当にわたしのためだということがわかったら、わたしたちはじっとしていることなどできるはずがありません。もしじっとしていることができ、神のこの御業に対して、少しも心を動かされないとしたら、あなたはよほど罪のために良心が麻痺してしまっているのだと思います。

クリスチャンは、もはや断罪されることがないのだということがわかり、それが神の御子の大きな犠牲によるのだということがわかったら、わたしたちは神のために何かをしない

ではいられなくなるはずです。

注

(1) ローマ教会への手紙八章一四節。

(2) 「御子」（八・三）と訳されたことばは、原語のギリシャ語では、トン・ヘアウトゥー・フィオン（τὸν ἑαυτοῦ υἱόν）ということばが使われています。これは、「ご自身の子」という意味です。

(3) ヨブ記三八章七節、詩篇八九篇六節など。

(4) ローマ教会への手紙一章四節。

(5) 同書一章三節。

(6) ヨハネによる福音書三章一六節　新改訳。

(7) ヨハネの第一の手紙四章九節　新改訳。

尾山令仁・ローマ教会への手紙講解（ロイドジョンズ・ロマ書講解要約）より

υἱός（フィオス）の意味

Ⅰ.〔本来の意味〕

①息子，子，男の子，男子；「血縁関係の属格」を伴う例では υἱός はよく省略される— τὸν τοῦ Ἰεσσαί, エッサイの子を，使13:22；υἱὸς πρωτότοκος, 長子；υἱός μονογενής, ひとり子（一人しかいない大事な子），独自の（類例を持たぬ）子，（他には）同じ意味で子と呼ばれる者は存在しないような（神の）子，ヨハ1:14，同3:16.

②子孫，子孫にあたる男子，マタ1:1「アブラハムの子孫，ダビデの子孫」．ただし ὁ υἱός Δαυΐδ（ダビデの子）はヘブライ人にとってメシアを指す呼称でもあった，マタ22:42, 45.

Ⅱ.〔比喩的転義〕

①～の性質・精神の体現者（息子は父の性質を反映し，父の存在を代表することから）；υἱοὶ Ἀβραάμ，アブラハムの精神と信仰を受け継ぐ者，ガラ3:7，τ. πονηροῦ (τ. διαβόλου), 悪い者（悪魔）の精神・仕業（しわざ）の体現者；οἱ υἱοὶ τοῦ νυμφῶνος, 婚礼に招かれている新郎の友人たち，マタ9:15；他にも υἱοὶτ. φωτός, τ. εἰρήνης, τ. γεέννης, τ. ἀπωλείας, τ. αἰῶνος τούτου 等，これらのものの性質・精神を身を持って現わしている人を表わす「ヘブライ的表現」である．

② υἱοὶ τοῦ θεοῦ,「神の子ら」神の本質と属性を代表する者，神の意志を身をもって行なう者の意味で，いくつかの意味に用いられる，

(a) 天使，み使い；ヤハヴェの周りに集まる天の法廷のメンバーであり，ヤハヴェの聖である性質を部分的に分与され，ヤハヴェの意志の遂行に与ることから．

(b)「神の精神の体現者」マタ5:9等，υἱοὶ (καὶ θυγατέρες) τ. ὑψίστου「至高者—神の愛・聖等の体現者」ルカ6:35，Ⅱコリ6:18,

(c)［単数］「神の子」，独自の意味でイエスを指す ὁ υἱὸς τοῦ θεοῦ, マタ16:16，ヨハ11:27，ロマ1:4等，地上において父である神を独自の形で代表し，神の意志を完全に行ない，神の聖・愛を完全に身を以って現わし，神の救い，贖いを代行された方として，他の誰もがそう呼ばれない意味においてイエスは″ὁ υἱὸς τοῦ θεοῦ″である；コロ2:9，ヨハ14:9，同10:30.

(c) 織田昭 電子版「新約聖書ｷﾞﾘｼｬ語小辞典」改訂第４版